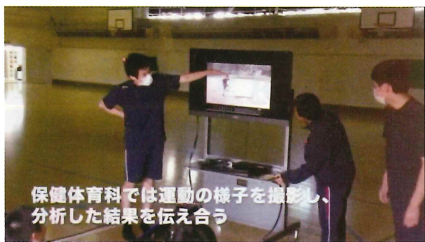


# 附属学校休業中の取り組みとこれからの改革

## オンライン授業の研究支援事業

### 北海道教育大学附属釧路中学校

学校の目標として、教科の本質に迫る授業、生徒が知的好奇心を持って主体的に学ぶことを掲げられています。それを実現するために、すでに対面授業においても、情報端末を文房具のように用いる授業が日常化していました。そのために、コロナ禍においても、オンライン授業を身構えることなく実践し、その良さを生かすことができていました。また、その経験を積極的に他校にも共有されており、地域の教員研修支援センターとしての附属学校の役割を果たされています。



## 緊急事態下で園の使命を果たすために

### 福井大学教育学部附属幼稚園

「子どもの姿を核に学び続ける」を核として、「保育の見える化」を重視した保育改革を推進してきました。平成29年からfacebookの活用、平成30年からは園と保護者のコミュニケーションを支援するために、情報通信技術を活用したアプリを導入されました。保護者の幼児理解の推進、教職員の資質向上、地域への発信、家族間で子どもの姿の共有、連絡や情報把握の活用に役立ちました。さらに、YouTube限定配信とZoomオンラインシナリオの活用で、臨時休園中も園児たちが先生方のお顔を見ることができ、園児たちの心の健康を支えることができました。そこでは、領域ごとの柱で作成した園児向けの動画や新年度の園生活のイメージを配信、そして副園長、園長、教員の自己紹介等も同様に配信されました。

新入園児のご家族からは臨時休園中も孤立せず、大学と幼稚園に親しみと所属意識を持つことができ、安心して過ごすことができましたと好評の声をいただきました。



## オンライン授業

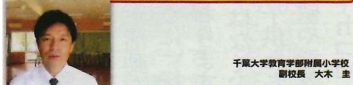
### 千葉大学教育学部附属小学校

新しく赴任された先生と、新三年生の子どもたちが、初対面しコミュニケーションをはじめの大切な日が「学級開き」です。しかし、休校中では「学級開き」も「授業」も教室で行うことができません、オンラインで行われました。

オンラインで「朝の会」を毎日続けることで、先生と子どもたち、そして子どもたちの間で、活発にコミュニケーションができるようになりました。

その中にある「子どもたちの意欲」を学びに繋げられるよう、先生は不思議に思ったら何でも投稿してみようと、子どもたちに呼びかけます。そして、その疑問をもっと深掘りしてい

- 休校期間中の千葉大附属小の取組**
- 2020年度4月13日～オンライン学習
  - オンライン上での学級開き
  - リアルタイム「朝の会」の実施
  - つながり・居場所の確保
  - オンライン上の双方向型・課題学習
  - 参加可能な児童のみオンライン授業
  - 6月1～12日...分散登校・オンライン併用
  - 6月15日～7月10日...教室に全員登校



## 夢をかなえる支援者ミーティング

### 熊本大学教育学部附属特別支援学校

熊本大学教育学部附属特別支援学校からは、生徒の自立と社会参加を願い、学校・保護者・関係機関が一体となって実践する取組みについてご報告していただきました。

取組として、生徒の「夢・希望」の実現に向け、学校・家庭・関係機関が組織する「支援者ミーティング」を開催し、個別の教育支援計画を作成することで、きめ細やかな支援を実践されています。これを基に家庭で行った実践（全61事例）を収録した実践集を刊行され、そのうち「一日日記から自分を振り返る力」「ひとりで行けるモン！バスや電車を乗り継いでプチー

全附P連PTA研修会  
第11回全国大会

PTA実践集  
～夢・希望への歩み～

熊本大学教育学部附属特別支援学校

人旅」。「ごほん・おかずを作ってみよう」の3つの取組み事例をご紹介します。

学校・保護者・関係機関の支援により、生徒の確かな成長が感じられる取組みでした。

# 令和2年度 全附P



お話をいただいた  
文科省の齋藤室長

アフターコロナの新しい学校教育を実現するには、国立大学附属学校が我が国の学校全体を牽引する先導的な役割を担うよう期待するとお話しされました。

## 基調講演

# 脳ト 東北

力との関係については「スマホの恐怖」と題し、スマホを使う事で顕著にテストの点数が下がる事、特に悪い影響が出やすい通信系アプリの事など、スマホにより子どもたちの脳発達や学力等に色々な影響が出ている事を示していただきました。

特にスマートフォンについては、今子どもたちがICTを使いこなす事が大前提となっている中、バランスの良い使い方を考えていく必要があるのではないか、そして、スマホを使用することによって起きている

### プロフィール



川島隆太（かわしまりゅうた）

昭和34年生れ。千葉県千葉市出身。東北大学加齢医学研究所 所長。東北大学スマート・エイジング学際研究所所長。平成29年より東北大学学際重点研究センター科修了、スウェーデン王国カロリンスカ研究所客員研究員、同講師、東北大学未来科学センター主任研究員を経て平成18年より東北大学加齢医学研究所教授。平成21年度文部科学大臣表彰「科学技術賞」、平成21年度井上野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」、平成21年度井上野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」、平成21年度井上野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」など、300冊以上を出

大学加齢医学研究所助手、同講師、東北大学未来科学センター主任研究員を経て平成18年より東北大学加齢医学研究所教授。平成21年度文部科学大臣表彰「科学技術賞」、平成21年度井上野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」、平成21年度井上野の文部科学大臣表彰「科学技術賞」など、300冊以上を出